

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和元年度第1回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	令和元年6月6日(木) 午前10時～11時50分
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 小研修室
議 題	(1) 平成30年度高松市生涯学習センター等の事業実績について (2) 令和元年度高松市生涯学習センター等の事業計画について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	7人
	武重会長、藤井副会長、上原委員、有賀委員、川上委員、徳増委員、豊田委員
傍 聴 者	0人(定員5人)
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

会議の経過及び結果
<p>《次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 教育局長あいさつ</li> <li>3 委員等紹介</li> <li>4 会長あいさつ</li> <li>5 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成30年度高松市生涯学習センター等の事業実績について</li> <li>(2) 令和元年度高松市生涯学習センター等の事業計画について</li> </ol> <p style="margin-left: 40px;">※事務局より配布資料に基づき説明後、議事単位で協議・意見交換</p> </li> <li>6 報告事項               <p style="margin-left: 40px;">平成30年度まなびCANアンケートの結果について</p> </li> <li>7 閉会</li> </ol> <p>《協議の経過及び結果》</p> <p>事務局から、議事(1)及び(2)について、説明を行った。</p> <p>(委員)</p> <p>平成29年度と平成30年度を比較し、講座の回数及びその参加人数が減少したのは、多目的ホールの天井改修工事を行ったことが原因なのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>平成30年7月から平成31年1月までの7か月間、多目的ホールの天井改修工事のため、多目的ホールを使用して毎月実施している「まなび映画CAN」などの主催講座が実施でき</p>

なかったことが大きく影響している。

(委員)

近年、生涯学習の在り方が大きく変化しており、生涯学習センターが講座のニーズを先取りする必要がある。現在、さまざまな講座を実施しているが、その成果をどのように評価するのか、考察するべきである。また、得られた効果をどのように次年度に活かすのか、職員が自覚・認識し、創意工夫しなければならない。加えて、マンネリ化した広報を市民の興味をひくようなものに変えていく必要がある。

民間ができないことを先駆けて行うことや、講座回数を減らしてでも、内容を充実させることが高松市の生涯学習の在り方である。市有各施設が連携を図り、講座を淘汰すれば、予算を効果的に使用できるのでは。

また、コミュニティセンターによって、生涯学習に対する意識に温度差がある。一生懸命実施しているコミュニティセンターの広報は、参加意欲を高めるものが多い。コミュニティセンター職員向けに実施している研修の成果が出ていないのではないかと。

(事務局)

生涯学習センターが実施すべき生涯学習、地域で実施すべき生涯学習がある。両方があることで市民が学ぶ幅が広がる。

地域が活性化すれば、生涯学習に限らずさまざまなことが活性化するが、地域によって温度差があるというのが現状である。生涯学習推進員の研修についても、各々の意識や能力を高められるよう、核となる生涯学習センターが効果的に働きかけていきたい。

(委員)

現在のやり方をコミュニティに応じた指導方法に変更すれば、目的を達成できるようになるのではないかと思う。

(委員)

生涯学習の概念は幅広いため、講座を開催する以外でもさまざまな手法があり、地域の活性化策にもさまざまな方法がある。生涯学習センターに適應する方法を考えてはいかがか。

先の意見にあったように、前年度の実績を出しているが、その効果がどこにあるのかが不明確である。現在、指標は講座開催回数や参加人数しかない。今後、どのくらい質が高まったかなど、探索できる方法を考える必要がある。

今ある指標（講座回数）で体系別に考えてみると、平成29年度と平成30年度を比較し、減少しているのは、センター利用促進事業のみで、原因は平成29年度に実施した15周年事業がなくなったからである。そうであれば、毎年周年事業に代わる事業を続けて実施していく必要があるのではないかと。

視聴覚ライブラリー及び交流サロンの講座回数の実績が示されていないことについて、常設しているので実施してきていると思うが、評価する指標が定まっていないというのが現状だろう。比較・検討するために数値化できるものを考えないといけないと思う。

(事務局)

視聴覚ライブラリー及び交流サロンについては、指標を検討し、数値化できるように改善する。

(委員)

センター利用促進事業は毎年進めていかなければならない事業だと思う。新規事業につい

て、今年度あるいは継続的に強化していく事業を決めていないと、周年事業がある年度以外は厳しい。現状は単発的に他と協力しているものばかりである。

例えば、香川県には瀬戸芸内国際芸術祭があるので、こちらを中心とした講座を実施すれば、3年に1回はセンター利用促進事業になるのではないかと考える。また、希少糖は糖尿病になりやすい香川県民にとって、おもしろい題材である。希少糖や野菜、うどんなどを一括りにし、食育など生涯学習のテーマになるような講座を考えれば、毎年何か実施できるはずである。毎年テーマを掲げ、年間10～15回実施すれば、事業におけるハリが出ると思う。

(委員)

大学などは高い受講料をとり、講座を実施しているが、高松市はお金をかけなくても、連携すれば講座を実施することが可能なので、工夫してほしい。

また、高松市の行政が抱えている課題を市民が正しく理解するために、市民に伝えることが、生涯学習センターの役目だと思う。そうすれば、高松市がもっと良くなる。

(委員)

今までやってきたことを思い切って捨てることから新しいことを始めることができると思う。

高松市にはおもしろい話がたくさん転がっており、その話を拾い、磨きをかければいい題材ができるのではないか。

(事務局)

高松市の課題があるというお話があったが、現代的・社会的課題（人権や男女共同参画など）はコミュニティセンターで実施している。マンネリ化しないように、内容を改めていきたい。

(委員)

職員が自覚と認識を持つべきである。また、高松市の事業について、評価するべきである。同じ講座をする場合でも、講師からどういうことを学んでほしいかということを伝え、熱意をもって講座を行ってほしい。

(事務局)

同じことをしてマンネリ化していることについては改善するべきである。ベースは変わらないが、1～2割ほど内容を拡充したということをしてPRするなど工夫する余地はある。ご指摘いただいたところを含め、対応していきたい。

---

事務局から、報告事項について、説明を行った。

(委員)

毎年アンケートを実施しているのであれば、経年分析したものを出せばどうか。

質問項目にも新しいものを加え、やり方を変えてみればよいのでは。

(委員)

生涯学習課が平成28年度に実施した市民式アンケート調査で問題が浮き彫りになっている。目的が不明確で小規模なアンケートを実施しても意味がない。アンケートの実施目的や結果の活用方法を明確にする必要がある。

(事務局)

生涯学習課と生涯学習センターが実施しているアンケートは別である。生涯学習課が実施したアンケート結果の中で、生涯学習は大事だと考えている人が多い反面、時間が限られており、取り組むことは難しいという人が多いことが分かっている。魅力的かつ必要な学びができる講座を実施して、生涯学習に結び付けていかないといけないと思う。

(委員)

生涯学習センターは生涯学習センターでしかできないアンケートを実施すべきである。

(事務局)

アンケートの内容に今後の生涯学習センターの活性化につながる項目を追加するように検討したい。

(委員)

調査は続けることに意味がある。新しい項目を加えつつ、続けていけばよいのではないか。

(事務局)

次回、検討後のアンケート内容をお示しできればと思う。

講座や貸館によって、住まいや交通手段など大きな違いがある。そのようなところを深掘りし、利用拡大につながるように考えていきたい。

(会長)

次回、今回出た意見に関して出来る範囲で提案していきたいので、引き続きご審議いただければと思う。